



新聞まさひこ通信

あけぼの曙

公明党福岡県議団 会報
 発行責任者
 福岡県議会議員
新聞 昌彦
 福岡市早良区曙2-1-35
 Vol.54号
 平成24年4月2日発行

県政報告

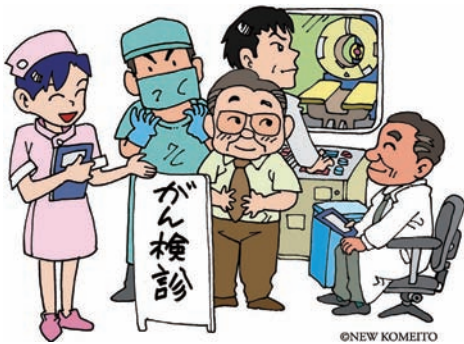
胃がんは、毎年11万人発症し、5万人が死亡。医療費は3000億円。福岡県では毎年1800人が亡くなっている。

胃がん検診率

目標健診率50%
 福岡県25.6%(全国42位)

特定健診率(市町村国保)

目標健診率65%
 福岡県25.4%(全国38位)



胃がん撲滅計画!

昨年12月、参院厚労委員会で、公明党の秋野公造参院議員の質問で、国は①胃がんは、ヘリコバクター・ピロリ菌が起因していることを認め、②ピロリ菌を除菌することで胃がんを予防できるとし③今後、検査、除菌方法を検討する。と答弁。

県議会の公明党の代表質問、予算特別委員会で検診率の向上について質問しました。

北海道の浅香正博特任教授が提唱する「**胃がん撲滅計画**」によると毎年約270億円で、毎年二万人の人命を救い、医療費を激減させ、将来胃がんは撲滅できると提示。しかし、その計画は、検診率が50%を想定している。検診率を上げることが課題です。

福岡県の胃がんの検診率、市町村国保の特定健診率ともに低く、これでは胃がんを撲滅できない。医師会などの協力を得るべきと提案。

知事は、市町村や県医師会、郡市医師会、地区医師会などに直接出向き検診率向上に協力依頼を行う。市町村に対しても出向いて健診率向上の対策を講じていくと答弁しました。

早期の精神疾患対策に専門家の訪問を!

代表質問で、精神疾患対策を質問しました。

早期の精神疾患患者は、自分では、異変に気づかない。周辺や家族の求めに応じて専門家が家庭訪問できる仕組みを作るべきと提案。

知事は、県精神保健福祉センター、県保健福祉環境事務所等の職員の訪問技術の向上を行い対応すると答弁しました。

